

朽木大トチノキ開花観察会

認定 NPO 法人びわ湖トラスト

実施：2016年6月4日

後援：大津市教育委員会、巨木と水源の郷をまもる会

びわ湖トラストが開催するトチノキ観察会も、今年で5年目を迎えた。2014年から春と秋の2回開催されるようになった観察会では、講師として今回もグリーンウォーカーネイチャークラブ代表の青木繁先生をお招きした。今回の観察会では、関係者9名、一般参加者20名の、計29名でトチノキを観察することとなった。リピーターも増えてきており、過去に参加した子供さんが友人を誘って更にリピーターを増やすという、トチノキを通じた良い仲間の輪が広がりつつあるように感じた。

昨年10月に続いて、今回もこれまでとは異なるルートを通り、例年とは異なるトチノキを見ることが出来た。今回のルートは、「弓坂（ゆみさか）越え」と呼ばれる、朽木の能家（のうげ）地区から古屋地区へ至る古道が選ばれた。この古道は、昔は小学校への近道でもあり、児童の通学や、郵便配達としても利用されていた生活道路であつたらしい。今回の観察会は、集合場所の山帰来での青木先生によるそんな説明から始まった。

説明の後、今回集まった児童たちに、高学年を前後に挟んで1列に並んでもらい、昔の児童たちはこのように整列して登校していたという事を教えて下さった。これは低学年の児童が事故にあうことを防ぐだけではなく、熊などの大きな動物に遭遇した時の被害を抑えるための知恵でもあつたらしい。青木先生は、熊鈴はあまり持ち歩かないそうである。これは、熊鈴が常に鳴り響くことで、人間が自然界の様々な音を聞き逃す可能性が高くなり、かえって危険な場合があるからというご説明だった。また、熊避けスプレーは念のため携帯しているが、いざ熊に出会ったときに、カバンから出して、皆を風上へ移動させて熊が風下へ移動したら風下へ向けてスプレー発射、なんて事はやっていられないだろうから、これはあくまで最後の手段で、基本的には自然の音をしっかり聞き分けよう、とおっしゃっていたことが印象的であった。

能家のバス停を右手に見ながら、早速古道へと入る。道中、青木先生は、ぬかるみに残った鹿の足跡の状態から鹿の向かう方向や、切り株の年輪からその木が生まれた頃、水溜りにいたカエルについてなど、登山中に目にした実に様々な事柄について丁寧にご説明下さった。また、残念ながらトチノキの開花の時期には合わなかった



けれども、周囲の樹木が伐採されているなか、トチノキだけは大切に守られている状況や、トチノキが食用として使われていたことなどをご説明くださり、昔からこの土地に住む方々の想いが、トチノキがここまでの大木に育ったことに繋がっているであろう事が良く理解できた。

ヒルやヤマカシ(有毒の蛇)に注意しながら山頂へ到着し、お弁当の時間となった。曇天のお陰で暑すぎることなく健康的にたっぷり汗をかいた後に食べる鯖寿司の入ったお弁当は最高であり、ご飯を口いっぱい頬張る子供たちの笑顔に眩しいエネルギーを感じた。その後、同じ場所でトチノキの花や、トチノキの花における両性花と雄花の違いや数などを、一つのトチノキの枝を実際に分けて花の数を数えた具体例などを写真を交えてご説明下さり、また、秋に見られるであろうトチノキの実がどのようなものなのか、実物を持参して説明を加えて下さった。「この実の中にどんなモノが入っているのか？それは秋の観察会の時までの楽しみにしましょう」と笑顔で話す青木先生の話には子供から大人まで皆が引き込まれる不思議な魅力があった。

山頂から帰路へ下る道すがらでは、落葉で見られるコナラやブナの植生の違いや、田んぼにいたモリアオガエルの白く泡のような卵、本当に梨のような味がしたイワナシの実など、青木先生は、私達の目に入る実に多くの自然を一つ一つ丁寧に解説下さり、子供たちの自然に対する興味がまた多く芽吹いたのではないかと実感した観察会であった。



(文責 青田)

